



業績不振による退職理由が2社以上ある

こんなことが読み取れる

- 退職理由を追求されたくないため、業績不振と記載している
- 自分さえよければという考えで、責任感がない

退職理由が「業績不振のため退職」と記載されている職務経歴書には注意する。退職理由について追求されたくないため、業績不振が直接の原因でなくとも、原因は会社にあると記載する応募者がいる。2社以上を業績不振を理由として辞めている場合、責任感がなく業績が悪くなっても、他人事のようにして辞める人材かもしれない。少なくとも5年以上在籍しているのであれば、応募者が不振を奪回するために行ったことを、簡潔に記載すべきだ。

「会社が原因ならば仕方がない」と、記載されている理由を鵜呑みにする採用担当者がいるが、倒産ではなく業績不振や事業縮小であれば、記載内容の信憑性について疑ってみるべきだ。

自己都合の退職理由は、少なからずネガティブな印象を与える。「上司とうまくいかない」「目標を達成できない」「残業が多い」「賃金が安い」など正直に記載すると採用に不利になると考え、当たり障りのない退職理由を記載する傾向がある。業績が悪くなっても他人事のように考える応募者は、厳しくなるとすぐ逃げ出すことが多い。業績が悪いときこそ実力の見せ所なのだが、自己中心的に「自分さえよければ……」と考えて、退職する人もいる。

業績不振について具体的なことが記載されていないため、状況を把握できない場合は、面接で具体的に確認をしてみる。可能であれば、業績不振と記載されている会社の状況について調べてみるのもいい。応募者が堂々と業績不振と記載しているも、会社の利益が伸びていることもある。

プロジェクトが縮小という理由で退職する応募者は、他部署では能力を評価されない人かもしれない。業績不振やプロジェクト縮小が事実なこともあるが、記載されている内容を何の疑いを持たず受け入れてはならない。応募者は採用されたために、不利にならないよう、必死になって取り繕うのだ。